

明治十一年十月十日 太政大臣三條實美



開拓使

起業基金出納條例并附錄別冊、通相定
候條各事業着手、初ヨリ右ニ照準履行
可致此旨相達候事

明治十二年一月二十四日

太政大臣三條實美



起業基金出納條例

明治十一年^四月^四第七号布告并大藏省第十三号布達ヲ
以テ發行シタル起業公債募集金壹千万圓ヲ大藏省
ニ納入シ全省ニ於テ更ニ起業基金ノ稱呼ヲ設ケ各
起業ノ資本ト爲シ以テ其費途ニ供給シ其事業ヲ振
興シ及ヒ利益ヲ實際ニ徴シ該公債ノ實利ヲ見シテ
ヲ要ス故ニ該金出納ノ手續ヲ定メ并事業ノ景况報
告要旨ヲ示ス左ノ如シ

第一條 起業公債募集金ハ明治十一年度豫算表歲入出

款外ニ於テ收入支出ヲ揭示シ爾後該金額ヲ起業基金

ト爲シ大藏省ニ於テ別途受拂ノ取扱ヲナサシメ毎年

兩度^{會計年度}報告書ヲ製シ各起業費其他諸費ノ計算

ヲ明カニシ及ヒ各事業進歩ノ景况報告ト共ニ概記シ

テ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ一般ニ公示スヘシ
ノ景況報告要旨ハ此
條例ノ末ニ附記ス

第二條 起業基金ハ原額ニ定限アルヲ以テ太政官ニ於
テ各省使起業ノ用途ニ應シ經費ノ定額ヲ指揮シテ合
計金壹千万圓ヲ越ヘサラシムルモノナリ

第三條 起業擔當ノ各省使 於テハ該金使用ノ用途及
キ年々受領ノ程度又ハ後來返償ノ用途アルハ其返
償ノ割合等ヲ確定シテ太政官ノ認可ヲ得ル上此條
例ニ遵ヒ從事スヘシ

第四條 起業基金ハ固ヨリ募集シ公債金額ナルヲ以テ
該公債ノ償却ト起業ノ効益ト相償フニ至ラシムルハ
第一ノ要點ナリトス故ニ起業擔當ノ各廳ニ於テ實地
使用ノ際務メテ冗費ヲ沙汰スルハ勿論金額消費ノ多

寡ト事業ノ効益ト必ス相償フニ至ラシムヘキ様專ラ
注意スヘシ

第五條 起業公債ノ元金及ヒ利息ヲ毎年償却スルハ該
公債募集金ニテ興隆シタル事業上ヨリ生スル收入金
ヲ以テスヘキ筈ナリト雖モ該起業ノ内ニハ間接ニ利
澤アリテ直接ノ收入ヲ得ル能ハサルモノアリ又後年
ニ至リ其收入アルモ事業創始ノ際全ク得益ヲ見サル
モノアルカ故ニ該公債ノ償却方ハ大蔵省ニ於テ別ニ
之レカ方法ヲ設ケ歳入常用ノ内并準備金ノ利子ヨリ
其基金ヲ備ヘ毎年定期ヲ逐ヒ償却ヲ為スヘシ而シテ
後來各營業上ヨリ生スル益金ヲ漸次集收シテ該公債
ノ實益ヲ永遠ニ徴シ其計算分明ナランテ要ス
第六條 起業擔當ノ各廳ニ於テハ追テ營業ノ上收入ア

ルモノハ營業資本へ回入シタル殘餘ヲ以テ家初支給
シタル起業費返償トシテ大藏省へ納入シ會計年度一
週コトニテ第五号雜形ニ照準シテ償却高報告書ヲ製シ
大藏省へ送付スヘシ而シテ起業費ノ返償ヲ終レハ純
益トシテ是又大藏省へ納入スヘシ
第七條 第五六兩條ノ如ク該公債ノ償却ト起業基金ノ
出納トヲ二途ニ分ツト雖モ該公債募集金ヲ以テ各事
業ヲ興起シタル所ノ損益ハ則チ第一條大藏省ヨリ計
算報告書ヲ以テ精算比較シテ一般へ公示スヘシ依テ
起業擔當ノ各廳ヨリ開業ノ上營業收入ナル向ハ第四
号雜形ノ如ク損益比較報告書ヲ調製シテ毎年六月十
二月ヲ限リ每半年分ツ、翌月廿日ヲ限リ大藏省へ送
付スヘシ

第八條 起業費ト營業費トハ判然區別スヘシ起業費ハ
勘定仕上毎トニ拂切り決算ヲ遂クヘシ營業費ハ家初
ニ見込ヲ以テ定メタル資本金額ヲ据置キ漸次營業上
ヨリ生スル收入金ヲ以テ其資本ニ回入シ更ニ元受ト
為シ數回轉換スヘキモノトス而シテ其資本ニ回入シ
タル餘金ヲ起業費返償トシテ大藏省へ納入スヘシ
第九條 起業營業兩費トモ左ニ列記スル科目ニ照ラシ
テ勘定帳又ヒ報告書等ヲ調製スヘシ
俸給 是レヲ大科目トス小科目ハ通常經費ノ
例ニ從ヒ各區分スベシ以下之レニ準ス
諸官員等外技術俸給其他雇給 日給月給ノ別ナク金負
ノ多寡ヲ問ハス官員
又ヒ技術ノ事務ニ從
事スルモノヲ云フ

給典
諸官員滿年賜金或ハ勉勵衆ニ起ルモノ等へ賞賜及

ト諸賄料寫字生給仕等ヲ始メ定用雇人足賃等
工事ニ使役スルモノハ其他臨時諸職工ハ賞與等
職工給ハ編入スベシノ類

旅費

諸官負其他内外派遣ノ旅費

出張廳諸費

出張廳日用要需諸物品ノ類

建築費

工場ヲ始メ一切附属ノ諸建物等新規管築及ヒ修繕

共

器械費

工場据付諸器械ノ購入并毀損ノ修理及ヒ諸職工ニ
貸與スル一切ノ器具其他右ニ属スル需用諸物品共

營業需用費

營業ニ供用スル一切必需ノ物品

職工給

工事ニ使用スル諸職工人足賃

外國人諸費

備給其他ノ諸費

生徒費

賄費其他ノ諸費

右概略ヲ掲ク此他費途ノ都合ニ因リ便宜之ヲ類集シ
テ一大科目ニ立ツルモ妨ケナシ

第十條 凡ソ起業營業トモ其費用ニ立ツヘキハ前條ノ

大科目ニ照ラシテ類推編入スハシ而シテ之レヲ管理
スル其本廳内務省ノ土木局工部省ノ
鑛山鑛道局等ヲ云フノ經費ハ通常經

費中ヨリ支辨シテ其事業經費ノ定額ヨリ支給セサル
ヘシ

第十一條 各起業ノ内従前ノ營業改良ニ係ルモノハ従
前ノ費項逐一調査ヲ遂テ改良着手前後ノ區別ヲ明カ
ニシ前日ノ令ハ明治十年七月外審達作業費出納條例開
拓使ハ全使仕来リノ規則ニ照準シテ勘定ヲ遂テ従前
ノ營業資本ハ大藏省へ送納シ（改良後ノ營業資本ハ改
良費額ノ内ニ見込ユレアル令ハ起業基金ヨリ交付シ
見込ユレナキ令ハ更ニ交付方前以大政官ノ指揮ヲ乞
フヘシ）更ニ改良ニ係ル費途ヲ以テ起業費ニ立ツヘシ
其區別詳明ナランイヲ要ス

但従前營業中追テ使用スヘキ見込ヲ以テ製置シタ
ル器械物品等ハ仮令ヒ改良ノ為メ使用ヲナスコト
ルモ従前作業費ノ部令ニ組込決算ヲ為スヘキモノ
トス

第十二條 改良前ノ興業資本ハ營業收益ノ内ヲ以テ償
却スヘキ筈ニ付キ改良ノ資本ハ起業基金ヨリ支出ス
ト雖ヒ大藏省へ營業收益納入ノ節興業資本ノ未償高
ト改良資本高トノ歩合ヲ以テ二口へ向テ送償スヘシ

第十三條 起業費勘定帳ハ第一号雛形ニ營業費精算報
告ハ第二号雛形ニ營業收入勘定帳ハ第三号雛形ニ照
準シ総テ毎三ヶ月之ヲ調成シ翌月廿日ヲ限リ大藏省
へ送付スヘシ

第十四條 各起業ニ屬スル諸物品ノ出納ハ明治九年九
月九第十八号達ニ照準シ別表ニ調成シ大藏省へ送付ス
ヘシ

第十五條 各營業需用ノ物品ハ平常管保ニ注意シ實地
求需ニ應シ之ヲ交付シ受拂トモニ渾テ購入ヤシ現時
ノ代價ヲ付シテ出納スヘシ尤モ實際支用シタル時々
ヲ以テ本拂ノ經費ニ立ツヘキモノトス

第十六條 大藏省ニ於テハ各廳ノ勘定決算ヲ終ヘ再ヒ
各起業費及ヒ該公債ニ関スル諸費等ヲ合計シテ起業
基金受拂勘定此勘定帳ハ大藏省一般ノ例規ニ依毎年

兩度六月十二月ヲ區別シニ決算ヲ遂ケタル上第一
條ノ如ク計算報告ト事業ノ景况報告ト共ニ調製シテ
毎年三月九月兩度ニ一般ハ頒布スヘシ

第十七條 右報告書ハ到底該公債ノ考績状タルヲ以テ
其編製家モ明確ナランヲ要ス故ニ實際ノ模様點檢ヲ
要スル下アラハ大藏卿ノ見込ヲ以テ臨時官負ヲ派出

シテ其景状又ハ會計ノ簿冊等ヲ檢閲セシムル下アル
可シ

附 録

事業ノ景況報告要旨

第一項 凡ソ起業公債ノ募金ヲ以テ着手シタル事業ハ其着手ノ初ヨリ竣功迄ヲ見積リ年限ノ概數ニ由リ何カ通リ運歩セシトノ際略ヲ示スベキ事

第二項 一事業ノ内施行ノ順序ヲ逐ヒ成否ノ始末ヲ詳細記載シ且何々仕上テニハ何程ノ職工又ハ人夫ヲ勞役シ何程ノ日數ヲ消シタル等報告シテ其事業ノ景況ヲ徴スルニ足ルヘキモノハ詳細記載スヘキ事

但本文内譯ノ數目多キモノハ計表ヲ製シ閱覽ニ便スヘシ又ハ模様ニ依リ職工人夫ノ雇賃其外諸費等附記スルモ可ナリ

第三項 事業經營ノ位置及ヒ方積等其他一切ノ模様圖

畫ヲ要スヘキモノハ簡便ナル畧圖ヲ以テ見易カラシムベキ事

第四項 凡ソ事業中ノ一事タリトモ新發明ニ係ル一或ハ外國人ノ發明說ニ因テ便益ヲ成シタル等ハ其原由又ハ其實施シタル現況ヲ記載スヘキ事

第五項 開業後ノ報告ハ營業ノ盛衰利害其他便益ノ効驗ヲ徵証スヘキ半アルハ記載スベキ事

第六項 右ノ外都テ一般人民ヲシテ容易ニ其景狀ヲ領知セシムル様注意取調毎年六月十二月ヲ限リ、每半年間ノ報告書ヲ製シ翌月廿日ヲ限リ大蔵省ヘ送付ス可キ事

第七項 大蔵省ニ於テハ各事業報告書ニ據リ之ヲ綜合料理シテ毎年兩度（即チ三月九月）計算報告ト共ニ人民

一般へ報告スベキ事

興譯

金

何起業費

(爰ニ起業ノ終名ヲ揚クヘシ鉄道ノ如ク何所ヨリ何所迄ト記載スヘシ)

内譯

金

何々

(大科目ノ金負ナリ)

内

金

何々

金

何々

(以下此例ニ倣ヒ大小科目ヲ區分別列記スヘシ)

金

何起業費

(内譯書式前例ニ倣フ)

一金

元拂差引残

(即チ翌月へ越高)

差引残

(起業竣成ノ書式ナレバ此一項ヲ加フ)

何年何月何日

一金

大藏省納

右ハ年号何年自何月起業費受拂勘定仕上書面ノ通相違無之候也(起業竣成)又ハ年未シ書式ナレバ云々相違無之候
ノ下ニ左ノ文ヲ加フ 就テハ年号何年何月ヨリ今何月迄ニ属スル受拂高脱落等一切無之候也

長官

年号月日

官姓

名印

大藏卿宛

第二号雛形

年号何年

自何月

至何月 每三ヶ月

營業費受拂報告書

何使省

何營業

一金

元受高

内現物品代價金

外國或ハ遠隔ノ地へ物品ヲ注文シ已ニ其代價ノ幾少ヲ支給セシ類ハ現金中ニ算入スヘシ

此譯

金 前月ヨリ越高

爰ニ越高ヲ掲クルハ着手後三ヶ月目以降ノ書式ナリ

管業資本何年何月何日ヨリ全
何月何日マテ大藏省ヨリ受取

但証何号何号

金 收入金 管業費ハ何月ヨリ
何月マテ回入高

外

金 益金トシテ大藏省へ納付高

一金 仕拂高

内 現物
物品代價金

内 譯

金 何々

内 現物
物品代價金

(大科目ノ金負ナリ)

内

金 何々

金 何々

内 現物
物品代價金

以下此例ニ倣ヒ大小科目ヲ區分列記スヘシ

一金 元拂差引残

(管業費トシテ翌年へ越高)

内

現金

内 現存
用中高

物品代價

前月ヨリ越未收入

何々收入

何々不用品拂代

以下各事業限リ此例ニ倣ヒ内譯列記スヘシ

一金

支出高

内

金

何々営業資本へ回入

内

金

何々收入へ分

金

何々不用品拂代

金

何回入金大蔵者へ
何月何日納付

但証何号

内

金

改良資本返償

金

興業資本返償

金

何々不用品拂代大蔵者へ
何月何日納付

但証何号

内

金

改良資本返償

金

興業資本返償

以下各事業限リ列記スヘシ

一金

入出差引残

但翌月へ越未收入

外

金

製作濟未收入

右ハ明治何年自何月何日何々營業收入精算書面ノ通相違無之候也

長官

明治年月日

官

姓

名

印

大藏卿宛

年未書式ハ第一号雛形ニ似テ

第四号雛形

自何年何月何日
至何年何月何日

何營業損益以數報告

何使者

何々營業

起業費

金

家初ヨリ本年何月迄

營業費

金

合計金

年号月日
大藏卿宛
長官
官姓名印

第五号雜形

自何年何月
至何年何月

何起業費償却高報告

何興業費償却高報告

何省使

(興業費ト改良費トノ二口ヘ向テ償却ノ報
告ハ朱書ノ如クナルヘシ以下之レニ倣フ)

一金 起業費

一金 償却高

内

金

年号何年ヨリ何年マテ
償却済

Blank space for text on the right page.

開拓使

日本英吉利兩國船難破救助費用償還方、儀別紙、通外務省ヨリ上申候事此旨相達候事

明治十二年二月八日

太政大臣三條實美

